

「新海洋混合学」国際活動支援成果報告書（2015 年度後期分）

平成 28 年 3 月 31 日

計画研究班名：A02-3 「オホーツク海・ベーリング海における混合と物質循環の解明」

申請者氏名・所属・職名：鈴木光次・北海道大学大学院地球環境科学研究院・准教授

申請者連絡先 電話・メール：011-706-2370, kojis@ees.hokudai.ac.jp

対象者氏名・所属・職名：Stanford B. Hooker・米国 NASA・主任研究員

鈴木光次・北海道大学大学院地球環境科学研究院・准教授

対象者連絡先 電話・メール：+1-301-286-950・stanford.b.hooker@nasa.gov

相手氏名・所属・職名：Stanford B. Hooker・米国 NASA・主任研究員

相手連絡先 住所・電話・メール：NASA/GSFC/Code 616.2, Bldg. 28 Rm. W120D
Greenbelt, MD 20771, USA・+1-301-286-950・stanford.b.hooker@nasa.gov

申請項目（複数可、数字を記入）：5.1.3

1. 国際共同航海の調整, 2. 拠点形成に関わる派遣・招聘, 3. 国際共同研究関連, 4. 研究者派遣, 5. 海外研究者招聘, 6. 研究技術研修, 7. 研究動向調査, 8. その他（ ）

申請課題名：正確な現場海洋光学データの取得とその海色衛星リモートセンシングへの応用

成果報告要旨（A4 数枚以上図表・写真等を含む研究成果報告詳細版を別ファイルで添付すること）：

目的：Stanford B. Hooker 博士（NASA）らが開発した現場水中光学データ獲得ソフトウェア（DACPRO）および同データ解析ソフトウェア（PROSIT）の最新版を頂き、その使用方法等の講習を Hooker 博士より受ける。また、これまでの共同観測で得た光学データの議論を行い、東京 TKP ガーデンシティー竹橋で開催される JAXA GCOM ジョイントワークショップにおいて、密接な情報交換を行う。

報告：2016 年 1 月 14 日（木）夕刻に Hooker 博士に来日して頂き、1 月 15 日（金）、上記ソフトウェアのアップデートの準備およびこれまでの共同研究で得た光学データの整理等を行って頂いた。1 月 18 日（月）、Hooker 博士と鈴木光次が 2014 年 6-7 月に実施したロシア船マルタノフスキー Mu14 航海で採取した光学データおよびそのデータと衛星リモートセンシングの水中アルゴリズムから推定されるクロロフィル濃度の検証に関する議論を行った。1 月 19 日（火）、東京 TKP ガーデンシティー東京駅八重洲カンファレンスセンターにおいて、Hooker 博士から現場水中光学データ獲得ソフトウェア（DACPRO）および同

データ解析ソフトウェア（PROSIT）の最新版（各バージョンは、160112a v15 および v0.9.23c）を頂き、参加者各自、同ソフトウェアのインストールを行った。また、Hooker 博士から同ソフトウェアの使用説明を受けた。その際に使用したスライドは別紙のとおりである。参加者は、Hooker 博士の他、平譚享准教授（北海道大学大学院水産科学研究院）、和賀久朋氏（北海道大学大学院水産科学院 D1）、虎谷充浩教授（東海大学工学部、オブザーバー）、鈴木光次准教授の計 5 名であった。1 月 19 日（木）東京 TKP ガーデンシティ竹橋で開催された JAXA GOM ジョインとワークショップにおいて、平成 28 年度に打ち上げ予定の第 1 期気候変動観測衛星 GCOM-C1 に搭載される多波長光学放射計（SGLI）に関する情報の交換、2015 年に実施した白鳳丸 KH15-1 次研究航海（親潮域）、KH15-4（黒潮域）次研究航海時に取得した光学データおよび今後の共同研究に関する議論を行った。

全体計画・計画研究への寄与：DACPRO および PROSIT の最新版を入手し、またその講習を受けたことにより、今後の光学観測時の利便性が向上し、より精度の高い光学データを取得できるようになった。また、2014 年のロシア船マルタノフスキー Mu14 航海、2015 の白鳳丸 KH15-1（親潮域）および KH15-4（黒潮域）次研究航海時に取得した光学データの議論および今後の成果取りまとめについて、議論することが出来た。

制度の改善点・感想等：

研究成果報告詳細版は、受入研究者が作成するのはなく、招へいされた外国人研究者が、本新学術領域課題に対して如何に貢献したかを含めて作成して頂くようにした方が、国際活動の内容が理解しやすいように思います。

実際の日程：

1 月 14 日（木）：来日

1 月 15 日（金） - 1 月 19 日（木）：本研究成果報告要旨参照

1 月 21 日（木）：離日

使用した予算内訳（旅費とその他の経費に分けて記述）：

精算額：348,923 円

内訳

飛行機代：1908.40 US\$

鉄道代：3,670 円

日当：93,600 円